人口動態の概要

1 概　　要

平成18年の人口動態事象は，前年に比べて，出生，婚姻は，実数，率ともに上回り，離婚は，実数，率ともに下回り，死亡，死産は，実数が増加したが，率は変わらなかった。

出生数は25,330人で，前年に比べて590人増加した。人口千対の出生率は8.9で前年より0.2上昇した。

死亡数は25,722人で，前年に比べて143人増加したが，人口千対の死亡率は前年同様9.0となった。

死亡原因をみると，悪性新生物，心疾患，脳血管疾患のいわゆる三大死因が全死亡数の57.1%に達している。

また，乳児死亡数は67人で，前年より3人増加した。出生千対の乳児死亡率は前年と同様2.6となった。

周産期死亡数は92件で，前年より13件減少した。出産千対の周産期死亡率は3.6で前年より0.6低下した。死産胎数は629胎で，前年より16胎増加したが，出産千対の死産率は前年同様24.2となった。

婚姻件数は16,209件で，前年より481件増加した。人口千対の婚姻率は前年より0.2上昇した。

離婚件数は5,484件で，前年より125件減少した。人口千対の離婚率も1.93で前年より0.04低下した。

出生数から死亡数を引いた自然増加数は△392人で，戦後はじめて自然減少に転じた前年に引き続き自然減少となった。

表1　主要人口動態指標の対前年比較

（単位：人，%）

項目	実数			率			平均発生間隔					
				広島県		全国						
	平成18年	平成17年	対前年比	平成18年	平成17年	平成18年	平成18年			平成17年		
							時	分	秒	時	分	秒
出生	25,330	24,740	102.4	8.9	8.7	8.7	0	20	45	0	21	14
死亡	25,722	25,579	100.6	9.0	9.0	8.6	0	20	26	0	20	32
自然増加	-392	-839		-0.1	-0.3	0.1	22	20	48	10	26	27
死産	629	613	102.6	24.2	24.2	27.5	13	55	36	14	17	25
自然死産	256	245	104.5	9.9	9.7	11.9	34	13	7	35	45	18
人工死産	373	368	101.4	14.4	14.5	15.6	23	29	6	23	48	15
婚姻	16,209	15,728	103.1	5.7	5.5	5.8	0	32	25	0	33	25
離婚	5,484	5,609	97.8	1.93	1.97	2.04	1	35	50	1	33	42
（再掲）												
乳児死亡	67	64	104.7	2.6	2.6	2.6	130	44	46	136	52	30
新生児死亡	31	35	88.6	1.2	1.4	1.3	282	34	50	250	17	8
周産期死亡	92	105	87.6	3.6	4.2	4.7	95	13	2	83	25	42
満22週以後の死産	71	77	92.2	2.8	3.1	3.7	123	22	49	113	45	58
早期新生児死亡	21	28	75.0	0.8	1.1	1.0	417	8	34	312	51	25

2 出　　生

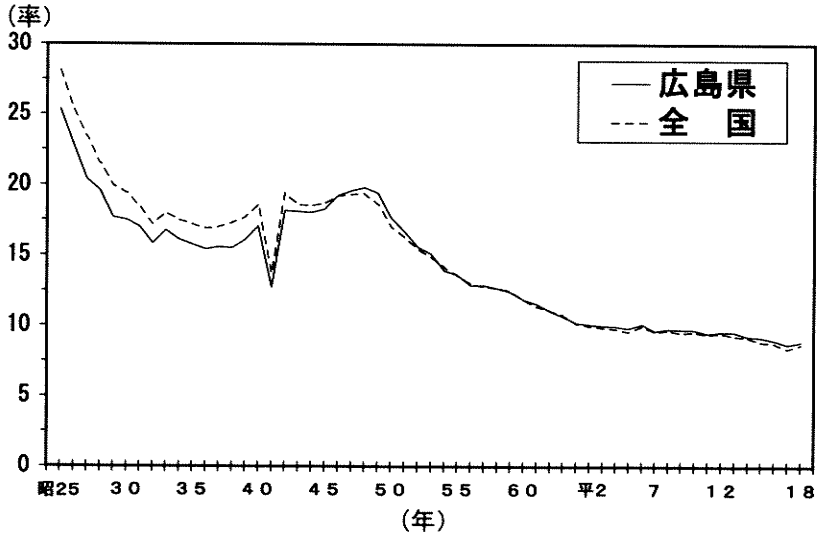
(1) 出生の動向

出生率は図１のとおり昭和48年から減少傾向を続けていたが，平成18年は全国，広島県ともに前年を上回っている。

また，全国と比べると，広島県の出生率は戦後一貫して低く推移してきたが，昭和46年から昭和53年の間は逆転し，昭和50年代半ばからほぼ全国と同水準で推移している。平成18年については，広島県の出生率は全国を0.2上回っている。

なお，出生性比（女100に対する男の出生数）は，106.3と前年より0.5低下した。（40ページ参照）

図１　出生率の年次推移（率：人口千対）



(2) 出生順位別にみた出生

表２は出生順位別の出生割合を年次別に示したものである。昭和30年には第１子と第２子で全体の63.7%であったが，平成18年には84.9%となっている。なお，第１子と第２子で占める出生割合は，近年，上昇傾向にある。

表２　出生順位別出生割合

（単位　%）

年　次	総　数	第１子	第２子	第３子	第４子	第５子以上
昭和　３０年	100.0	35.5	28.2	18.8	9.7	7.8
３５	100.0	44.3	34.6	13.9	4.2	3.0
４０	100.0	48.2	38.1	10.4	2.3	1.1
４５	100.0	46.4	39.8	11.5	1.7	0.6
５０	100.0	44.9	41.1	11.9	1.6	0.5
５５	100.0	41.7	41.1	14.8	1.8	0.5
６０	100.0	41.6	39.3	16.3	2.3	0.5
平成　２年	100.0	42.9	37.7	16.4	2.4	0.6
７	100.0	47.5	36.2	13.4	2.3	0.6
８	100.0	46.8	37.1	13.3	2.3	0.5
９	100.0	47.5	37.1	12.6	2.1	0.6
１０	100.0	47.6	36.9	12.8	2.1	0.6
１１	100.0	48.1	36.7	12.7	2.0	0.6
１２	100.0	48.9	36.7	11.8	2.1	0.6
１３	100.0	48.4	37.0	12.1	2.0	0.6
１４	100.0	49.5	36.6	11.4	1.9	0.5
１５	100.0	47.9	38.1	11.3	2.0	0.6
１６	100.0	47.8	37.8	11.8	2.1	0.6
１７	100.0	47.7	38.0	11.7	2.0	0.6
１８	100.0	47.1	37.8	12.5	2.1	0.5

(3) 母親の年齢別にみた出生

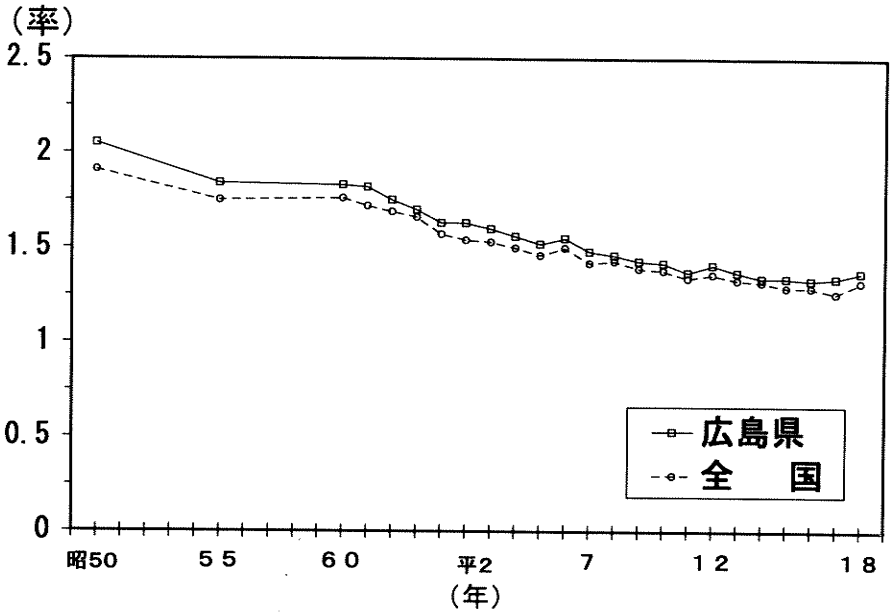
出生児数を母親の年齢別にみると，表３のとおり30～34歳の母親による出生が38.1%ともっとも多い。近年の推移をみた場合，20歳代の母親による割合が低下傾向にある反面，30歳代の母親による割合が上昇傾向にある。

表３　母の年齢（５歳階級）別出生児数・割合，年次別

年　次	総　数	15歳未満	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50歳以上	不詳
					実　数　（人）						
昭和　４０年	38,967	-	361	12,590	17,924	6,673	1,242	171	5	1	-
４５	44,532	-	429	13,430	22,319	6,703	1,450	186	6	-	9
５０	46,843	-	349	12,584	25,869	6,717	1,158	163	3	-	-
５５	37,360	1	323	7,641	19,719	8,391	1,161	120	4	-	-
６０	33,501	-	422	6,085	17,119	7,940	1,779	152	4	-	-
平成　２年	28,857	1	484	4,953	13,736	7,767	1,682	232	2	-	-
３	28,451	2	534	5,264	13,145	7,559	1,709	237	1	-	-
４	28,410	1	510	5,386	12,722	7,818	1,751	212	9	-	1
５	28,045	-	507	5,303	12,489	7,730	1,786	224	5	-	1
６	28,898	1	476	5,410	12,746	8,126	1,908	224	7	-	-
７	27,609	3	460	5,215	11,935	7,852	1,934	202	8	-	-
８	28,081	-	390	4,965	12,194	8,284	2,008	230	10	-	-
９	27,942	-	407	4,947	12,257	8,022	2,036	267	5	-	1
１０	27,914	1	395	4,544	12,165	8,366	2,185	249	9	-	-
１１	27,119	-	448	4,089	11,823	8,244	2,254	254	7	-	-
１２	27,384	-	494	3,901	11,745	8,501	2,454	280	9	-	-
１３	27,328	2	519	3,705	11,596	8,788	2,465	248	5	-	-
１４	26,508	1	576	3,604	10,569	8,942	2,514	291	11	-	-
１５	26,285	-	465	3,433	10,103	9,253	2,731	294	6	-	-
１６	25,734	2	469	3,322	9,209	9,382	2,986	356	8	-	-
１７	24,740	1	435	3,111	8,338	9,449	3,010	383	12	1	-
１８	25,330	2	440	3,242	8,116	9,644	3,505	371	10	-	-
					割　合　（%）						
昭和　４０年	100.0	-	0.9	32.3	46.0	17.1	3.2	0.4	0.0	0.0	-
４５	100.0	-	1.0	30.2	50.1	15.1	3.3	0.4	0.0	-	0.0
５０	100.0	-	0.7	26.9	55.2	14.3	2.5	0.3	0.0	-	-
５５	100.0	0.0	0.9	20.5	52.8	22.5	3.1	0.3	0.0	-	-
６０	100.0	-	1.3	18.2	51.1	23.7	5.3	0.5	0.0	-	-
平成　２年	100.0	0.0	1.7	17.2	47.6	26.9	5.8	0.8	0.0	-	-
３	100.0	0.0	1.9	18.5	46.2	26.6	6.0	0.8	0.0	-	-
４	100.0	0.0	1.8	19.0	44.8	27.5	6.2	0.7	0.0	-	0.0
５	100.0	-	1.8	18.9	44.5	27.6	6.4	0.8	0.0	-	0.0
６	100.0	0.0	1.6	18.7	44.1	28.1	6.6	0.8	0.0	-	-
７	100.0	0.0	1.7	18.9	43.2	28.4	7.0	0.7	0.0	-	-
８	100.0	-	1.4	17.7	43.4	29.5	7.2	0.8	0.0	-	-
９	100.0	-	1.5	17.7	43.9	28.7	7.3	1.0	0.0	-	0.0
１０	100.0	0.0	1.4	16.3	43.6	30.0	7.8	0.9	0.0	-	-
１１	100.0	-	1.7	15.1	43.6	30.4	8.3	0.9	0.0	-	-
１２	100.0	-	1.8	14.2	42.9	31.0	9.0	1.0	0.0	-	-
１３	100.0	0.0	1.9	13.6	42.4	32.2	9.0	0.9	0.0	-	-
１４	100.0	0.0	2.2	13.6	39.9	33.7	9.5	1.1	0.0	-	-
１５	100.0	-	1.8	13.1	38.4	35.2	10.4	1.1	0.0	-	-
１６	100.0	0.0	1.8	12.9	35.8	36.5	11.6	1.4	0.0	-	-
１７	100.0	0.0	1.8	12.6	33.7	38.2	12.2	1.5	0.0	-	-
１８	100.0	0.0	1.7	12.8	32.0	38.1	13.8	1.5	0.0	-	-

次に，一人の女性が一生のうちにどれだけ子どもを産むかを表す合計特殊出生率の年次推移は図２のとおり，おおむね低下傾向にある。平成18年は，広島県は1.37，全国は1.32であった。

図２　合計特殊出生率の年次推移



(4)　**体重別にみた出生**

表４は体重（0.5kg階級）別の出生割合及び平均体重を示したものである。これをみると，男は3.0kg以上3.5kg未満，女は2.5kg以上3.0kg未満の割合が最も多い。また，低体重児（体重2.5kg未満）の割合は男が8.7，女が10.8で，女がやや高い。

表４　出生児における体重別出生児の割合

体　重	男					女				
	平成14年	15	16	17	**18**	平成14年	15	16	17	**18**
総　数	100.0	100.0	100.0	100.0	**100.0**	100.0	100.0	100.0	100.0	**100.0**
1.0kg未満	0.3	0.3	0.3	0.3	**0.3**	0.3	0.3	0.2	0.3	**0.3**
1.0以上1.5未満	0.4	0.3	0.5	0.3	**0.5**	0.5	0.5	0.5	0.6	**0.5**
1.5 － 2.0	1.1	0.9	1.1	1.2	**1.1**	1.2	1.1	1.0	1.1	**1.4**
2.0 － 2.5	6.5	6.3	6.4	6.7	**6.8**	8.1	7.9	8.6	8.4	**8.6**
2.5 － 3.0	34.2	34.6	34.6	35.0	**35.1**	41.3	41.3	41.9	42.6	**41.4**
3.0 － 3.5	43.4	43.7	44.3	43.4	**43.7**	39.9	39.9	39.3	38.2	**39.2**
3.5 － 4.0	13.0	12.5	11.8	12.2	**11.5**	8.0	8.3	7.8	8.2	**7.8**
4.0 － 4.5	1.1	1.2	1.0	0.9	**1.0**	0.6	0.6	0.7	0.7	**0.7**
4.5 － 5.0	0.1	0.1	0.0	0.0	**0.1**	0.1	0.0	0.0	0.0	**0.0**
5.0kg以上	0.0	0.0	－	0.0	**－**	0.0	－	0.0	－	**－**
(再掲) 2.5kg未満	8.2	8.0	8.3	8.5	**8.7**	10.1	9.8	10.3	10.3	**10.8**
平均体重(kg)	3.06	3.06	3.05	3.05	**3.04**	2.97	2.97	2.97	2.96	**2.96**

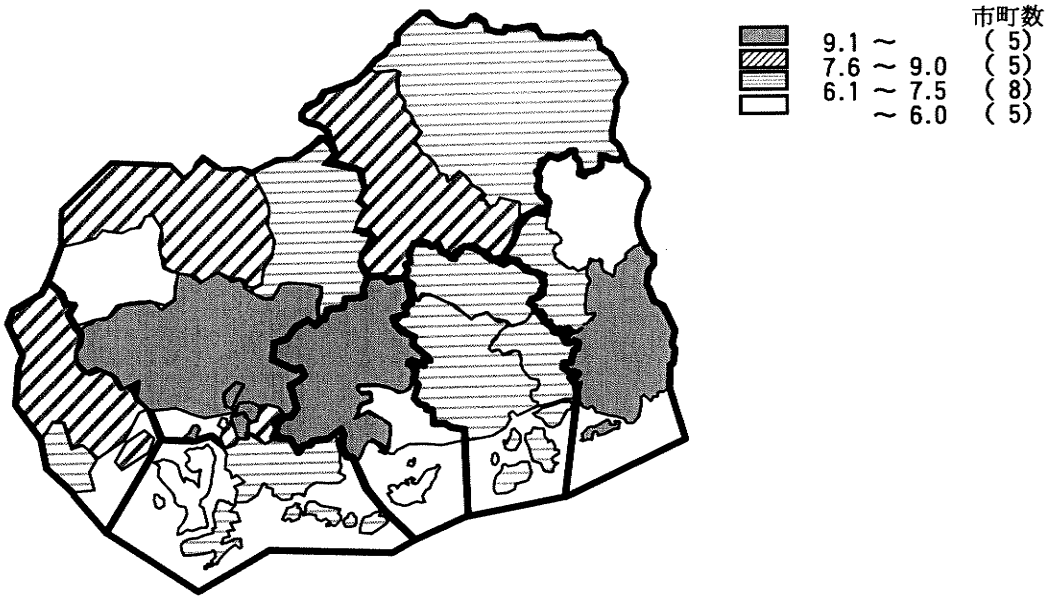
※注：母子保健法の改正に伴い，平成７年から「低体重児」の定義を「体重2,500グラム以下」から「2,500グラム未満」に改めた。

(5) 地域別にみた出生

図３は平成18年の市町別出生率を示したものである。

最高は海田町の11.0，最低は神石高原町の4.5で，9.1以上は広島市，福山市等の3市2町となっている。

図３　市町別出生率（率：人口千対）



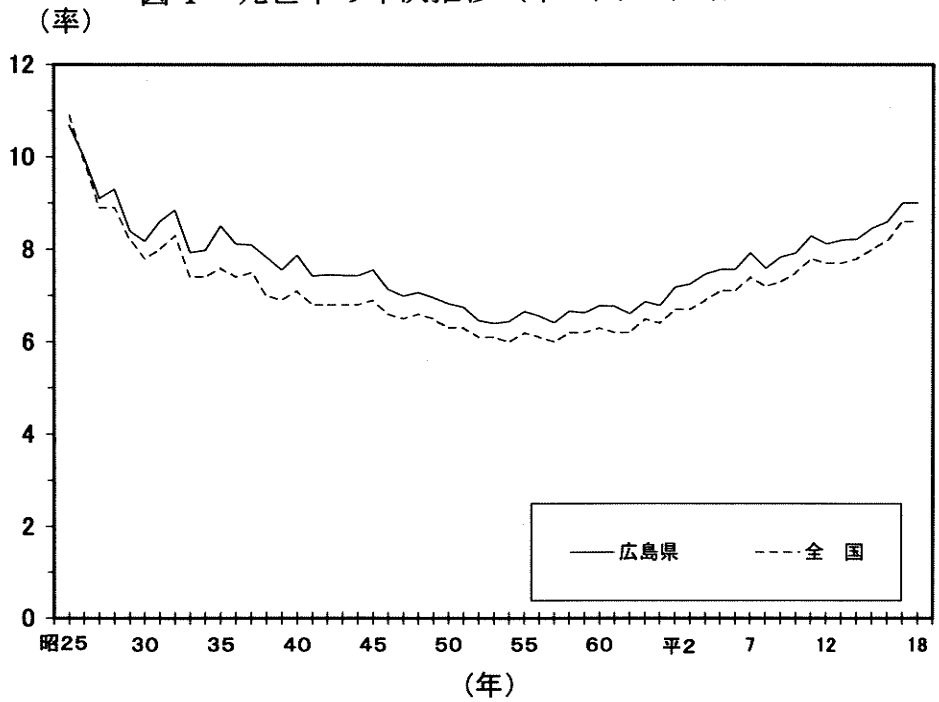
３ 死　　亡

(1) 死亡の動向

死亡の年次推移は図４にみられるとおりで，戦後，広島県，全国とも死亡率は低下傾向を続けていたが，昭和50年代後半以降上昇傾向に転じている。

なお，昭和26年以降常に広島県が全国を上回って推移している。

図４　死亡率の年次推移（率：人口千対）

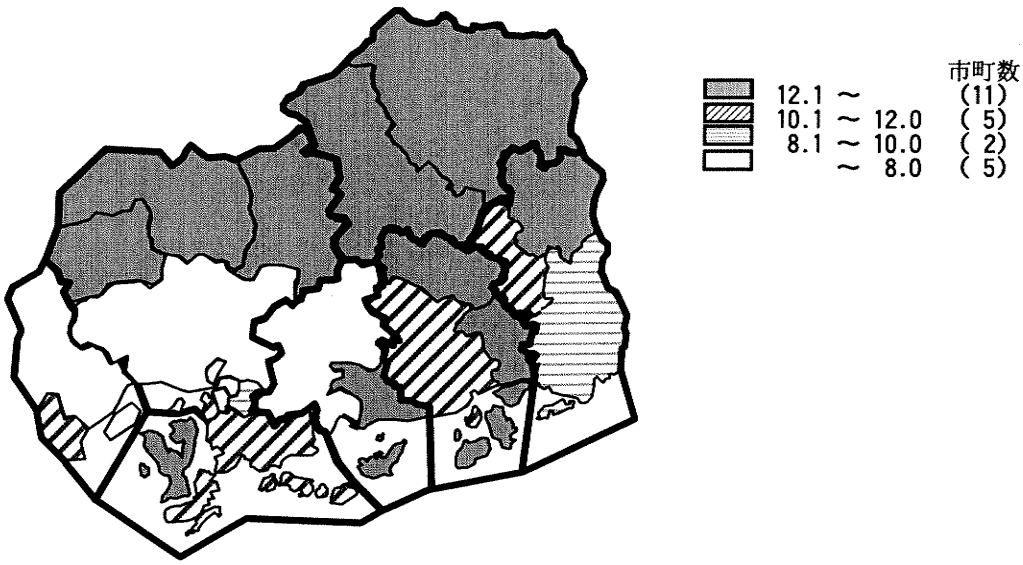


(2) 地域別にみた死亡

図５は，平成18年の市町別死亡率を示したものである。

最高は大崎上島町の19.0，最低は海田町の6.2で，8.0以下は広島市，廿日市市等の3市2町となっている。

図５　市町別死亡率（率：人口千対）



(3) 場所別にみた死亡

表５は死亡の場所別の割合を示したものである。昭和30年には自宅での死亡が78.6%で，病院での死亡は10.5%にすぎなかったが，昭和50年代前半を境に逆転し，平成18年には，77.5%が病院での死亡で，自宅での死亡は12.5%となっている。

表５　死亡の場所別死亡割合

（単位　%）

年　次	病　院	診療所	老人保健施設	助産所	老人ホーム	自　宅	その他
昭和　30年	10.5	2.3	・	0.0	・	78.6	8.5
35	17.0	2.4	・	0.0	・	72.5	8.0
40	22.9	3.6	・	0.1	・	66.5	7.0
45	32.2	4.7	・	0.1	・	56.7	6.3
50	39.6	5.2	・	0.0	・	48.4	6.7
55	49.7	5.2	・	－	・	39.1	6.0
60	59.2	5.8	・	0.0	・	29.7	5.3
平成　2年	67.6	4.6	0.0	－	・	23.8	4.0
3	68.5	4.4	0.1	－	・	23.4	3.7
4	69.5	4.3	0.1	－	・	22.4	3.8
5	69.3	4.3	0.1	－	・	22.9	3.4
6	69.5	3.9	0.1	－	・	23.2	3.3
7	71.0	3.7	0.2	－	2.6	19.6	2.9
8	72.0	3.5	0.2	－	2.5	19.0	2.7
9	73.4	3.7	0.2	－	2.9	17.1	2.7
10	73.9	3.5	0.3	－	2.9	16.7	2.8
11	74.8	3.4	0.2	－	3.0	15.8	2.8
12	75.9	3.3	0.4	－	3.3	14.4	2.6
13	76.1	3.4	0.5	－	3.3	14.0	2.7
14	76.9	3.1	0.5	0.0	3.5	13.4	2.6
15	77.3	3.4	0.5	－	3.5	12.7	2.7
16	77.6	3.4	0.5	－	3.2	12.5	2.8
17	78.3	2.9	0.5	－	3.5	12.0	2.7
18	77.5	2.8	0.7	－	3.7	12.5	2.8

注）平成7年から項目に老人ホームが加わった。

(4) 性・年齢階級別にみた死亡

図６，図７は年齢階級別の死亡率を示したものである。年齢階級別死亡率は10～14歳で最低であり，以後加速度的に上昇している。

また，性別では，男は常に女を上回っている。

図６　年齢階級別死亡率の年次比較（率：人口千対）

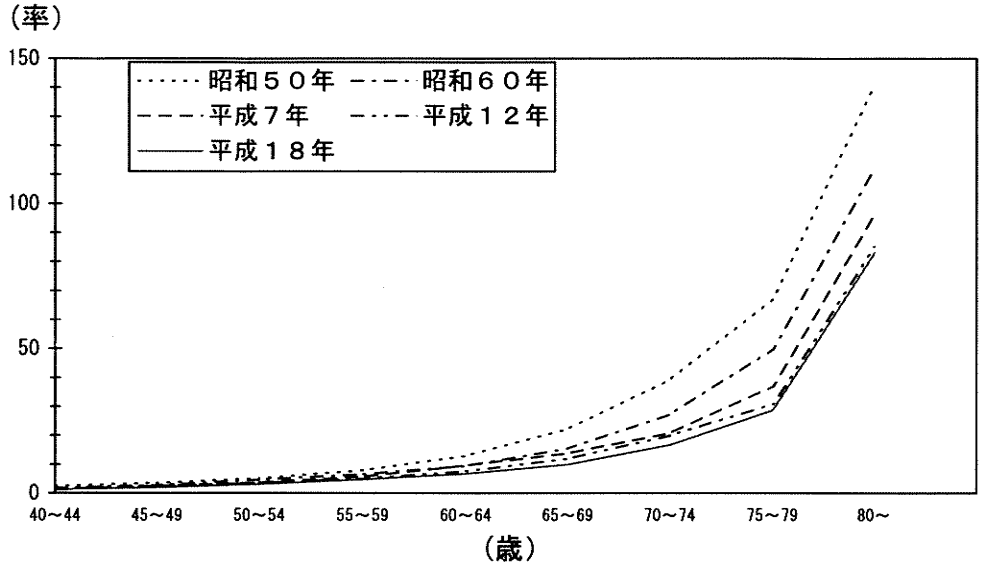
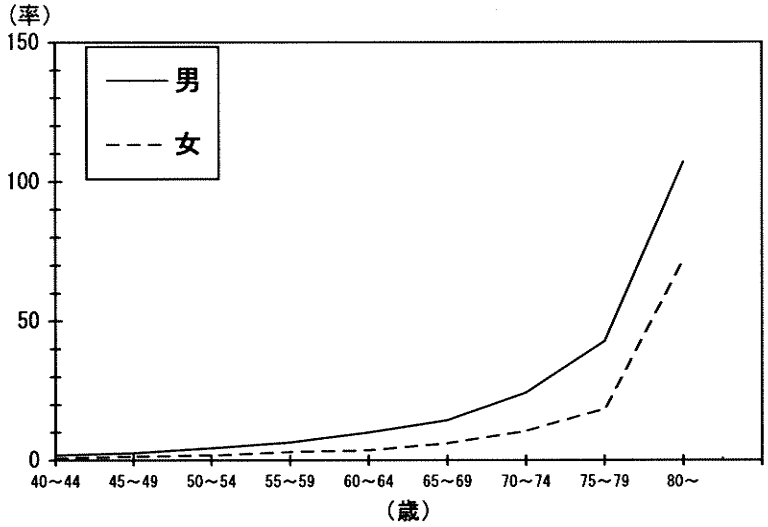


図７　年齢階級別死亡率の男女比較（率：人口千対）



(5) 死因の動向

表６は平成18年の死亡について，死因順位の第10位までを示し，全国及び前年の状況と比較したものである。

広島県における死因順位は，１位悪性新生物，２位心疾患，３位脳血管疾患となっている。

表６　主要死因の対前年比較

死因	平成18年 順位	平成18年 死亡者数(人)	平成18年 率(人口10万対)	平成18年 割合(%)	平成17年 順位	平成17年 死亡者数(人)	平成17年 率(人口10万対)	平成17年 割合(%)	全国の率(人口10万対) 順位	全国の率(人口10万対) 平成18年	全国の率(人口10万対) 順位	全国の率(人口10万対) 平成17年
総数		25,722	903.8	100.0		25,579	897.7	100.0		859.6		858.8
悪性新生物	1	7,580	266.3	29.5	1	7,551	265.0	29.5	1	261.0	1	258.3
心疾患	2	4,212	148.0	16.4	2	4,057	142.4	15.9	2	137.2	2	137.2
脳血管疾患	3	2,884	101.3	11.2	3	2,995	105.1	11.7	3	101.7	3	105.3
肺炎	4	2,697	94.8	10.5	4	2,596	91.1	10.1	4	85.0	4	85.0
不慮の事故	5	903	31.7	3.5	5	979	34.4	3.8	5	30.3	5	31.6
老衰	6	670	23.5	2.6	7	613	21.5	2.4	7	22.0	7	20.9
自殺	7	652	22.9	2.5	6	623	21.9	2.4	6	23.7	6	24.2
腎不全	8	557	19.6	2.2	8	526	18.5	2.1	8	16.8	8	16.3
肝疾患	9	384	13.5	1.5	9	412	14.5	1.6	9	12.9	9	13.0
糖尿病	10	342	12.0	1.3	11	307	10.8	1.2	11	10.8	11	10.8

図８，図９は主要死因の死亡率を年次別に示したものである。昭和25年までは，結核，肺炎が上位を占めていたが，30年以降は悪性新生物，心疾患，脳血管疾患が上位を占めている。

図８　主要死因の年次推移（率：人口１０万対）

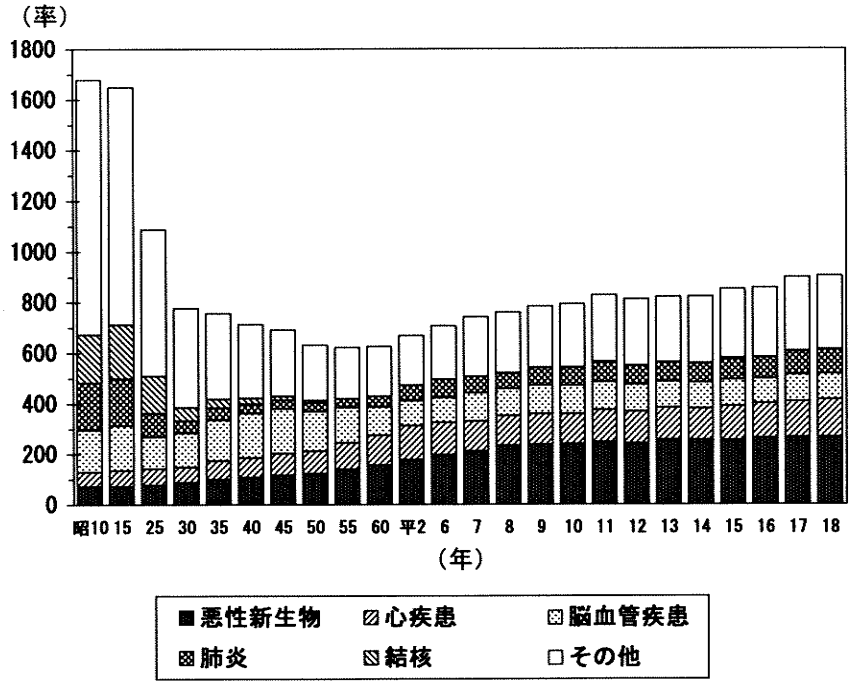
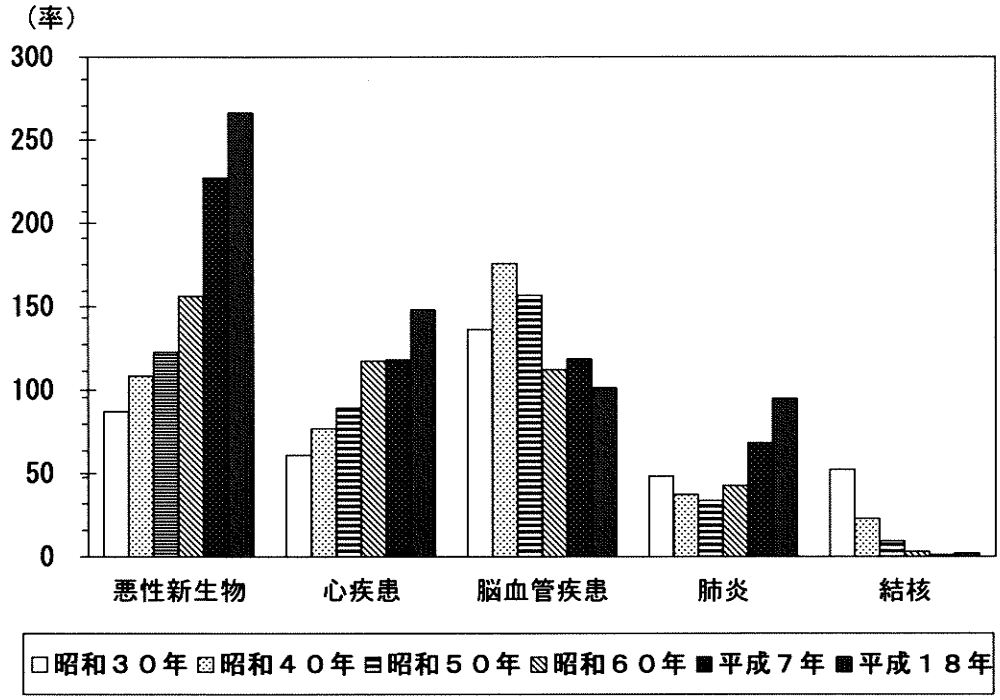


図９　主要死因の年次比較（率：人口１０万対）

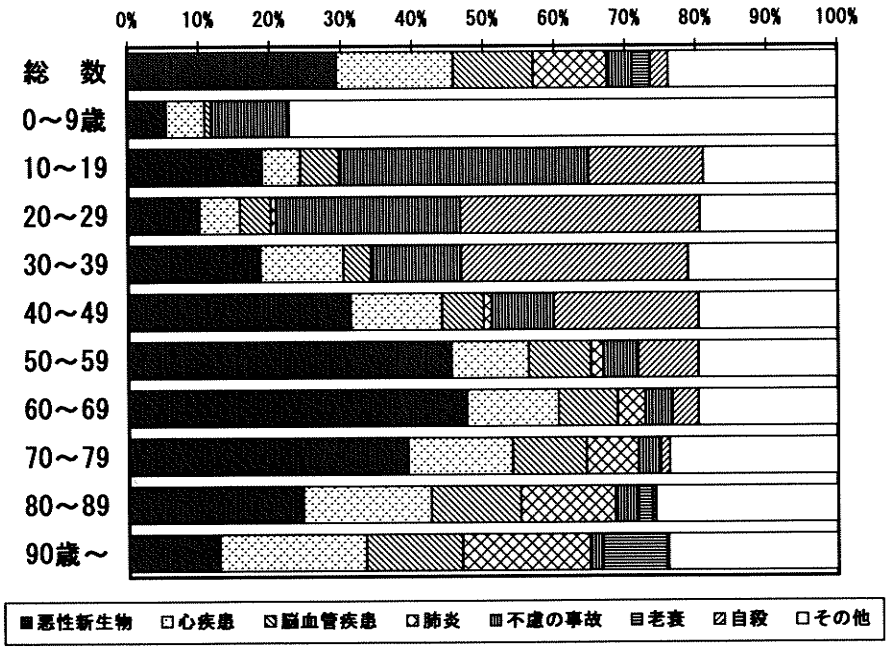


(6)　**年齢別にみた死因**

図10は年齢別に死因の割合を示したものである。

これをみると，40～60歳代では悪性新生物による死亡が多く，その後は加齢とともに心疾患や脳血管疾患の死亡割合が増加している。若年齢層では不慮の事故による死亡が圧倒的であり，10歳代では35.1%を占めている。

図１０　年齢階級別死亡割合



(7)　**三大死因**

三大死因とは，悪性新生物，心疾患及び脳血管疾患のことで，死因の最も大きな部分を占めるものであり，すべての都道府県でこれらの死因が全死因の上位３位までとなっている。

広島県では全死亡の57.1%を，全国では58.1%を占めている。

ア　悪性新生物

広島県の悪性新生物による死亡者数は，前年より29人増加して7,580人となった。（表６参照）図11は悪性新生物の死亡率の年次推移を示したものである。なお，全国と比較した場合，広島県が常に上回って推移している。

図１１　悪性新生物の年次別死亡率（率：人口１０万対）

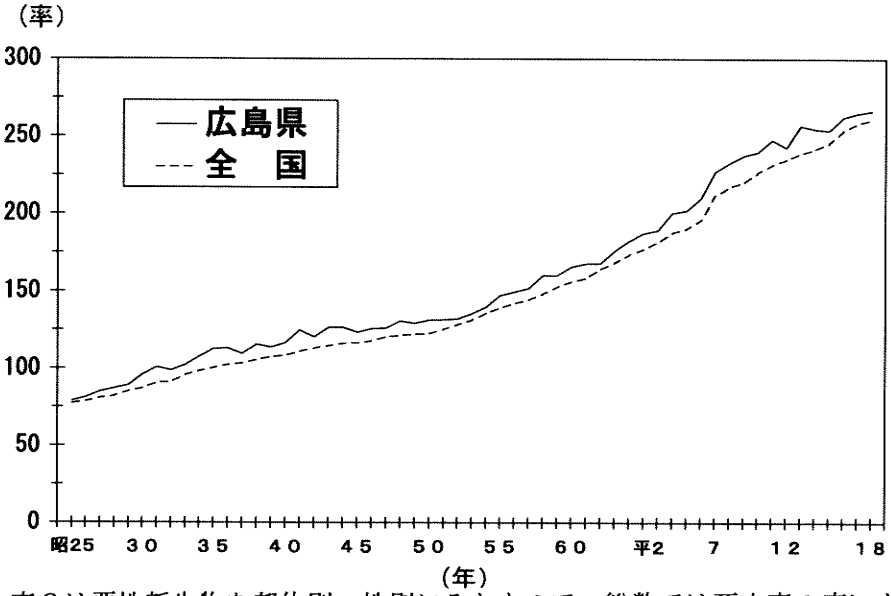


表７，表８は悪性新生物を部位別・性別にみたもので，総数では死亡率の高いものから気管・気管支及び肺，胃，肝臓の順である。男女別では全体的に男の占める割合が大きい。

表７　悪性新生物死亡数・死亡割合，部位・性別

部位	総数 実数	総数 %	男 実数	男 %	女 実数	女 %	部位	総数 (%)	男 (%)	女 (%)
総数	7,580	100.0	4,580	100.0	3,000	100.0	**総数**	100.0	60.4	39.6
食道	236	3.1	190	4.1	46	1.5	食道	100.0	80.5	19.5
胃	1,112	14.7	703	15.3	409	13.6	胃	100.0	63.2	36.8
結腸	587	7.7	273	6.0	314	10.5	結腸	100.0	46.5	53.5
直腸	314	4.1	205	4.5	109	3.6	直腸	100.0	65.3	34.7
肝臓	1,072	14.1	734	16.0	338	11.3	肝臓	100.0	68.5	31.5
胆のう	361	4.8	175	3.8	186	6.2	胆のう	100.0	48.5	51.5
膵臓	535	7.1	256	5.6	279	9.3	膵臓	100.0	47.9	52.1
気管，気管支及び肺	1,442	19.0	1,049	22.9	393	13.1	気管，気管支及び肺	100.0	72.7	27.3
乳房	201	2.7	0	0.0	201	6.7	乳房	100.0	0.0	100.0
子宮	126	1.7	・	・	126	4.2	子宮	100.0	・	100.0
白血病	154	2.0	91	2.0	63	2.1	白血病	100.0	59.1	40.9
その他	1,440	19.0	904	19.7	536	17.9	その他	100.0	62.8	37.2

表８　悪性新生物死亡率，部位・性・年次別（率：人口１０万対）

性	部位	昭和60年	平成２年	７年	１２年	１４年	１５年	１６年	１７年	１８年
総数	悪性新生物総数	165.6	187.5	227.2	242.8	254.8	253.7	262.5	265.0	266.3
	食道	4.4	5.5	6.5	6.5	7.3	8.1	6.6	8.1	8.3
	胃	41.7	37.2	42.0	39.6	39.6	39.9	40.0	37.8	39.1
	結腸	…	…	17.0	19.1	18.9	20.0	19.8	21.3	20.6
	直腸	7.6	7.5	7.8	8.9	9.7	9.6	10.4	9.9	11.0
	肝臓	22.6	30.3	38.0	39.2	39.9	37.6	39.9	38.1	37.7
	胆のう	…	…	9.2	10.9	11.3	11.2	12.0	12.4	12.7
	膵臓	8.4	10.9	12.7	14.4	15.8	16.2	18.2	18.9	18.8
	気管，気管支及び肺	25.9	30.8	39.0	44.3	46.4	46.9	47.0	50.0	50.7
	乳房	3.9	4.5	6.1	6.9	8.0	7.7	7.7	7.9	7.1
	子宮	9.0	8.5	8.8	8.6	6.9	8.9	8.5	7.9	4.4
	白血病	4.2	4.4	5.4	4.8	5.6	4.8	5.2	5.1	5.4
	その他	42.5	51.9	39.1	43.8	48.6	47.2	51.2	51.4	50.6
男	悪性新生物総数	201.8	232.5	287.7	311.5	327.1	316.3	326.1	332.7	332.8
	食道	6.9	9.3	10.7	11.4	13.1	14.1	11.2	13.9	13.8
	胃	52.7	46.6	55.0	53.2	53.7	50.5	54.6	51.5	51.1
	結腸	…	…	16.9	21.6	18.6	21.3	19.9	20.5	19.8
	直腸	8.9	9.9	10.2	11.6	13.6	12.6	13.4	13.0	14.9
	肝臓	33.8	46.7	57.0	57.2	58.7	53.1	54.5	52.8	53.3
	胆のう	…	…	8.8	11.1	10.7	10.7	10.9	12.6	12.7
	膵臓	9.9	11.1	13.8	15.3	17.8	16.5	20.3	20.2	18.6
	気管，気管支及び肺	38.1	46.3	59.8	69.4	71.4	71.6	70.8	76.5	76.2
	乳房	0.1	-	-	0.1	0.1	-	0.1	0.1	-
	白血病	5.2	5.4	7.1	5.9	7.3	5.7	6.5	5.5	6.6
	その他	46.1	57.1	48.4	54.7	62.1	60.2	63.8	65.9	65.7
女	悪性新生物総数	131.3	145.0	170.2	178.4	187.3	195.1	203.1	201.7	204.1
	食道	1.9	2.0	2.4	1.8	2.0	2.4	2.4	2.6	3.1
	胃	31.3	28.4	29.7	26.9	26.4	30.0	26.3	24.9	27.8
	結腸	…	…	17.2	16.8	19.1	18.8	19.7	22.0	21.4
	直腸	6.3	5.2	5.6	6.4	6.0	6.8	7.6	7.1	7.4
	肝臓	11.9	14.8	20.1	22.3	22.5	23.1	26.3	24.3	23.0
	胆のう	…	…	9.5	10.7	11.9	11.7	13.1	12.2	12.7
	膵臓	7.1	10.8	11.6	13.5	14.0	15.8	16.2	17.7	19.0
	気管，気管支及び肺	14.2	16.1	19.4	20.8	23.1	23.7	24.8	25.1	26.7
	乳房	7.5	8.8	11.8	13.2	15.4	14.8	14.9	15.2	13.7
	子宮	9.0	8.5	8.8	8.6	6.9	8.9	8.5	7.9	8.6
	白血病	3.1	3.5	3.7	3.8	4.0	4.0	3.9	4.8	4.3
	その他	39.0	47.0	30.4	33.7	36.0	35.1	39.5	37.8	36.5

注1)　総数の子宮の基礎人口は，女子人口である。
　2)　死因分類等改正に伴い、平成７年から結腸，胆のうの項目を加えた。

イ　心疾患

心疾患（慢性リウマチ性心疾患，心筋梗塞等の虚血性心疾患，心不全等をいう。高血圧性の心疾患は含まない。）による死亡者数は，前年より155人増加して4,212人となった。（表６参照）

図12は心疾患の死亡率の年次推移を示したものである。広島県の心疾患死亡率は昭和26年以降，一貫して全国値を上回っている。

（注：平成６年の大幅な低下は，平成７年１月施行の新しい死亡診断書における「死亡の原因欄には，疾患の終末期の状態としての心不全，呼吸不全等は書かないでください」という注意書きの施行前の周知の影響によるものと考えられる。）

図　１２　心疾患の年次別死亡率（率：人口１０万対）

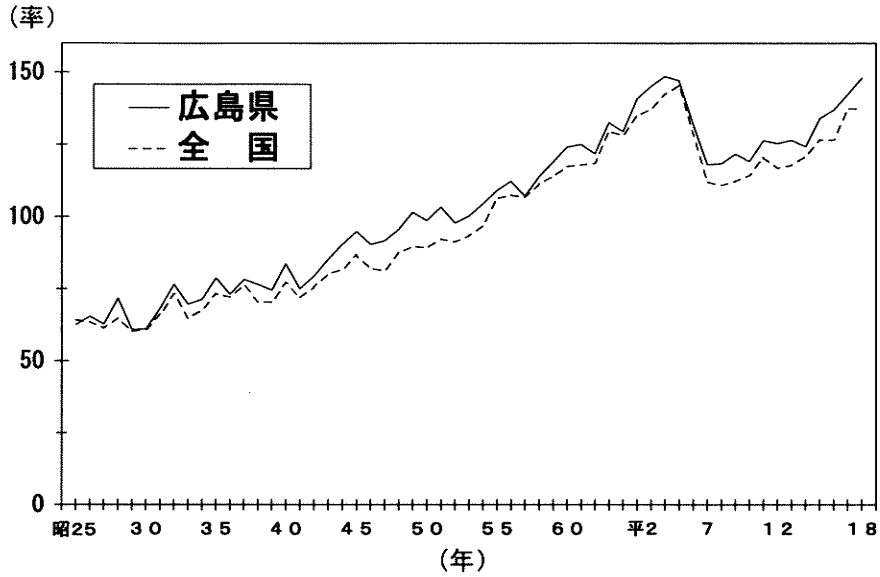


表9，表10は，心疾患を病類・性別にみたものである。近年では，総数において女性の率の方が高く推移している。

表９　心疾患死亡率，病類・性・年次別（率：人口１０万対）

性・病類		平成２年	７年	１２年	１４年	１５年	１６年	１７年	１８年
総数	心疾患総数	140.8	118.0	125.3	124.2	134.0	136.9	142.4	148.0
	急性心筋梗塞	25.8	44.0	33.7	32.6	31.6	33.3	32.3	28.4
	その他の虚血性心疾患	16.8	16.4	14.4	13.5	13.4	13.1	20.7	33.3
	不整脈及び伝導障害	…	9.0	14.5	14.8	14.7	16.9	14.6	12.3
	心不全	85.8	36.4	50.7	52.9	61.5	61.0	61.9	60.2
	その他	12.4	12.1	12.0	10.3	12.9	12.5	12.8	13.9
男	心疾患総数	139.9	119.0	124.7	120.1	131.8	132.6	140.2	139.1
	急性心筋梗塞	28.2	48.2	38.3	34.8	35.2	33.9	36.1	30.9
	その他の虚血性心疾患	14.8	15.3	13.5	12.6	13.9	14.0	22.1	38.2
	不整脈及び伝導障害	…	9.4	15.3	15.4	14.8	16.2	14.5	10.8
	心不全	84.4	34.4	47.1	48.0	58.4	57.2	56.8	48.6
	その他	12.5	11.7	10.4	9.3	9.6	11.3	10.7	10.7
女	心疾患総数	141.7	117.0	125.9	128.2	136.1	140.8	144.4	156.3
	急性心筋梗塞	23.6	40.0	29.4	30.6	28.2	32.8	28.7	26.1
	その他の虚血性心疾患	18.6	17.5	15.2	14.4	12.9	12.3	19.4	28.8
	不整脈及び伝導障害	…	8.6	13.7	14.2	14.6	17.6	14.7	13.7
	心不全	87.1	38.3	54.1	57.6	64.4	64.5	66.7	71.0
	その他	12.4	12.6	13.5	11.3	15.9	13.6	14.9	16.9

表１０　心疾患死亡数・死亡割合，病類・性別

病類	総数 実数	総数 %	男 実数	男 %	女 実数	女 %	病類	総数 (%)	男 (%)	女 (%)
総数	4,212	100.0	1,914	100.0	2,298	100.0	総数	100.0	45.4	54.6
急性心筋梗塞	808	19.2	425	22.2	383	16.7	急性心筋梗塞	100.0	52.6	47.4
その他の虚血性心疾患	948	22.5	525	27.4	423	18.4	その他の虚血性心疾患	100.0	55.4	44.6
不整脈及び伝導障害	349	8.3	148	7.7	201	8.7	不整脈及び伝導障害	100.0	42.4	57.6
心不全	1,712	40.6	669	35.0	1,043	45.4	心不全	100.0	39.1	60.9
その他	395	9.4	147	7.7	248	10.8	その他	100.0	37.2	62.8

ウ　脳血管疾患

脳血管疾患による死亡者数は，前年より111人減少して2,884人となった。（表６参照）

図13は脳血管疾患の死亡率の年次推移を示したものである。これをみると，上昇していた死亡率が昭和40年代前半を境に低下傾向に転じ，以降急激な低下傾向にあったが，平成７年には大きく増加している。（平成７年の急激な増加は，死因分類等の改正の影響があるものと考えられる。）

なお，平成18年は，全国101.7，広島県101.3となった。

図１３　脳血管疾患の年次別死亡率（率：人口１０万対）

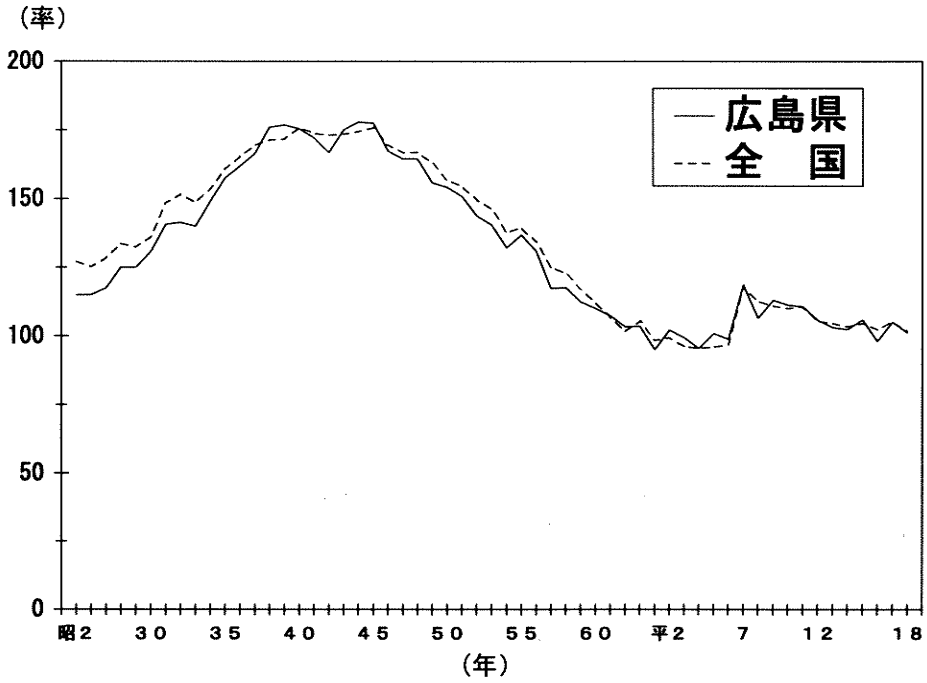


表11，表12は，脳血管疾患を病類・性別にみたものである。近年では，総数において，女性の率の方が高い傾向にある。

表１１　脳血管疾患死亡率，病類・性・年次別（率：人口１０万対）

	性・部位	平成２年	７年	１２年	１３年	１４年	１５年	１６年	１７年	１８年
総数	脳血管疾患総数	140.8	118.7	105.9	103.2	102.4	106.0	98.1	105.1	101.3
	くも膜下出血	…	12.5	10.4	10.7	10.0	11.5	11.5	11.2	11.0
	脳内出血	25.4	30.3	26.1	25.6	25.5	25.9	25.4	27.8	27.3
	脳梗塞	53.9	68.6	66.4	63.8	64.3	65.7	58.7	63.4	60.4
	その他	22.9	7.3	3.1	3.2	2.6	2.8	2.5	2.8	2.7
男	脳血管疾患総数	55.5	117.7	104.8	97.3	101.7	106.1	92.7	103.0	99.3
	くも膜下出血	…	9.4	7.8	7.5	8.2	9.0	9.3	8.8	7.6
	脳内出血	26.5	33.0	28.9	26.7	28.9	30.2	28.7	29.4	29.7
	脳梗塞	52.6	68.9	64.9	60.6	62.3	64.8	52.6	61.9	59.7
	その他	18.3	6.4	3.2	2.5	2.4	2.1	2.1	2.9	2.4
女	脳血管疾患総数	54.6	119.6	106.9	108.8	103.1	105.8	103.1	107.1	103.2
	くも膜下出血	…	15.4	12.8	13.7	11.7	13.9	13.6	13.5	14.2
	脳内出血	24.3	27.7	23.4	24.5	22.5	21.8	22.4	26.2	25.0
	脳梗塞	55.0	68.3	67.7	66.8	66.1	66.6	64.4	64.7	61.0
	その他	27.2	8.2	3.0	3.8	2.8	3.5	2.8	2.6	3.0

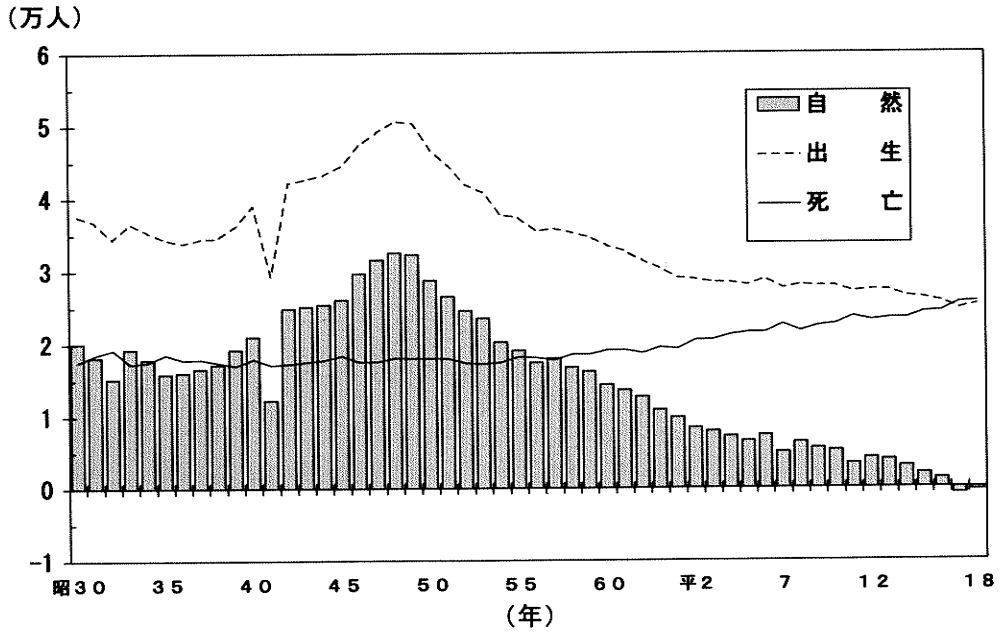
表１２　脳血管疾患死亡数・死亡割合，病類・性別

病類	総数		男		女		病類	総数	男	女
	実数	%	実数	%	実数	%		(%)	(%)	(%)
総数	2,884	100.0	1,367	100.0	1,517	100.0	総数	100.0	47.4	52.6
くも膜下出血	313	10.9	104	7.6	209	13.8	くも膜下出血	100.0	33.2	66.8
脳内出血	776	26.9	408	29.8	368	24.3	脳内出血	100.0	52.6	47.4
脳梗塞	1,718	59.6	822	60.1	896	59.1	脳梗塞	100.0	47.8	52.2
その他	77	2.7	33	2.4	44	2.9	その他	100.0	42.9	57.1

４　人口の自然増加

自然増加数の年次推移は図14のとおりで，死亡数が増加傾向にあることと，昭和49年以降の出生数の減少により自然増加数も減少する傾向にある。平成18年は，△392人となり，戦後はじめて自然減少に転じた前年に引き続き自然減少となった。

図１４　自然増加数の年次推移



自然増加率の年次推移は図15のとおりである。昭和50年の前後数年を除き全国を下回っている。

図１５　自然増加率の年次推移（率：人口千対）

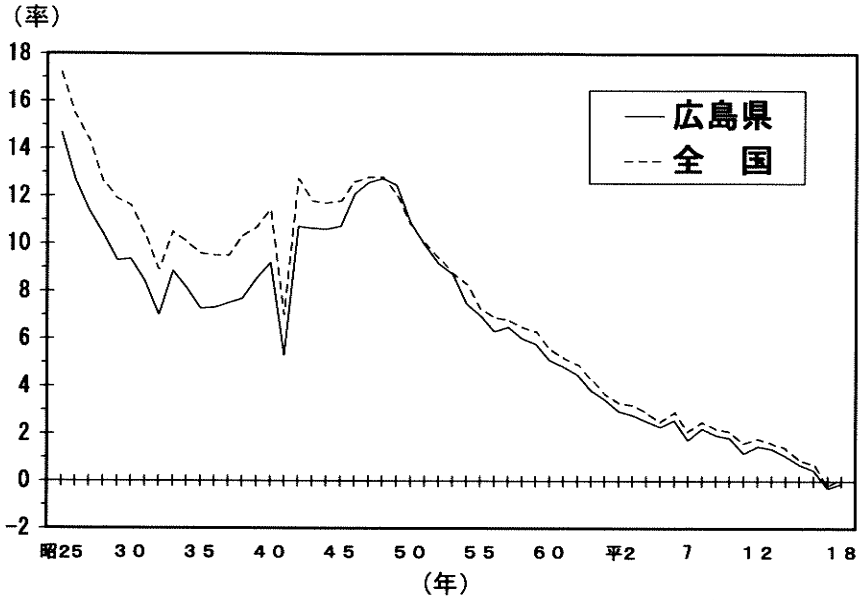
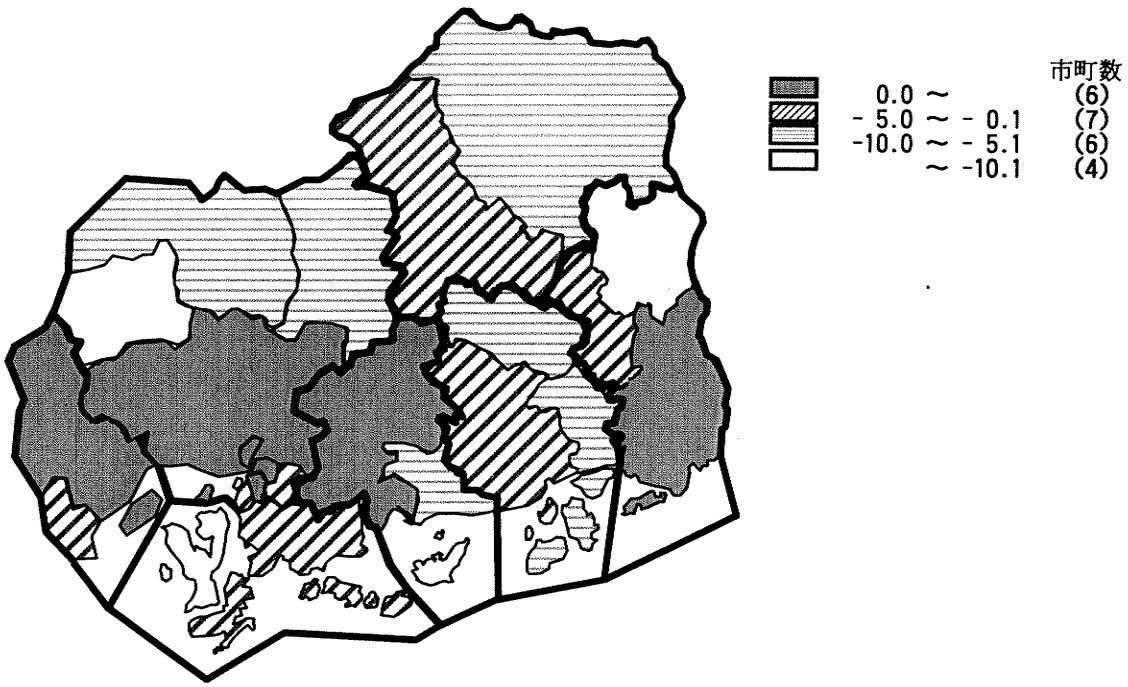


図16は自然増加率を市町別にみたものである。

最高は海田町の4.8，最低は大崎上島町の-14.4で，0.0以上は広島市，福山市等の4市2町である。

図１６　市町別自然増加率（率：人口千対）



5　乳児死亡

(1)　乳児死亡の動向

乳児死亡の動向は図17のとおりで，戦後大幅な改善がみられたが，近年はほぼ横ばいで推移している。なお，平成18年の広島県の乳児死亡率は2.6で，全国と同水準である。（表１参照）

図１７　乳児死亡数と乳児死亡率の年次推移（率：出生千対）

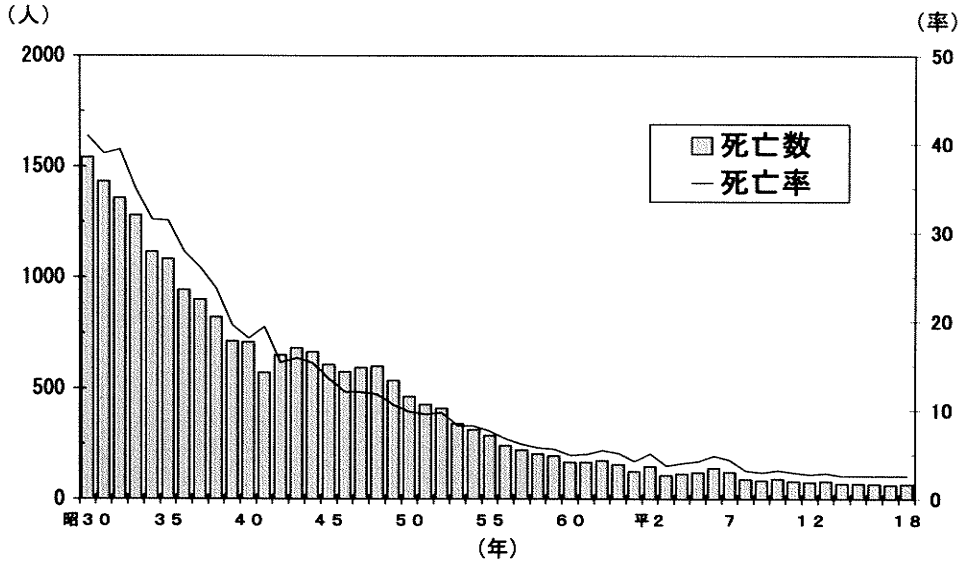


表13，図18は乳児死亡を生存期間別にみたものである。平成18年では４週未満に死亡した乳児は全乳児死亡の46.3%を占め，特に１週未満に死亡した乳児が31.3%と高い割合になっている。

なお，表14は乳児死亡を主要な死因別に分類したものである。

表１３　乳児死亡数・率，生存期間・年次別

年　次	総　数	４週未満	１週未満（再掲）	４週以上12週未満	12週以上24週未満	24週以上36週未満	36週以上
			乳　児　死　亡　数　（人）				
昭和　３５年	1,082	594	363	175	150	85	78
４０	707	445	306	104	75	46	37
４５	606	387	302	73	62	48	36
５０	463	312	236	48	46	33	24
５５	286	174	138	33	33	28	18
６０	166	100	75	24	25	11	6
平成　２年	148	69	48	32	21	10	16
７	122	51	40	32	20	11	8
１２	76	37	27	15	15	5	4
１７	64	35	28	8	16	2	3
１８	67	31	21	14	9	8	5
			乳　児　死　亡　率　（出生千対）				
昭和　３５年	31.4	17.2	10.5	5.1	4.4	2.5	2.3
４０	18.1	11.4	7.8	2.9	1.9	1.2	0.9
４５	13.6	8.7	6.8	1.6	1.4	1.1	0.8
５０	9.9	6.7	5.0	1.0	1.0	0.7	0.5
５５	7.7	4.7	3.7	0.9	0.9	0.7	0.5
６０	5.0	3.0	2.2	0.7	0.7	0.3	0.2
平成　２年	5.1	2.4	1.7	1.1	0.7	0.3	0.6
７	4.4	1.8	1.4	1.2	0.7	0.4	0.3
１２	2.8	1.4	1.0	0.5	0.5	0.2	0.1
１７	2.6	1.4	1.1	0.3	0.6	0.1	0.1
１８	2.6	1.2	0.8	0.6	0.4	0.3	0.2

図１８　生存期間別乳児死亡構成比の推移

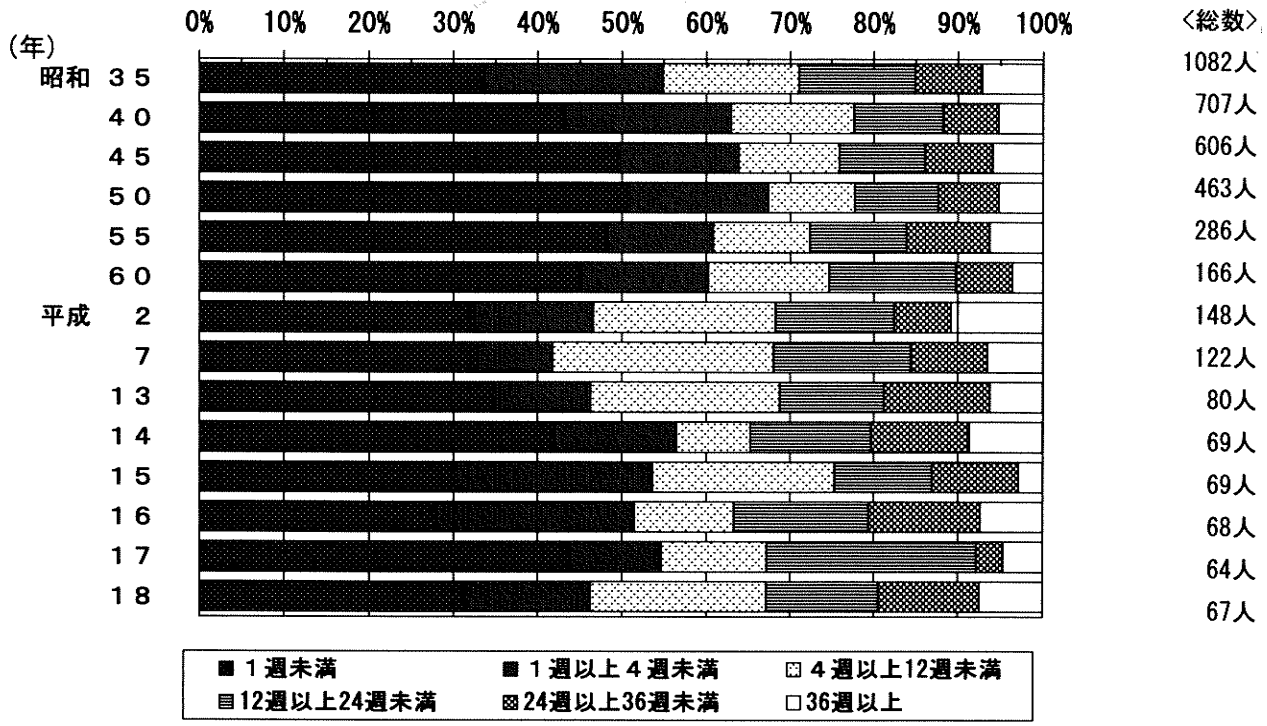


表１４　乳児死亡数・割合，主要死因・年次別

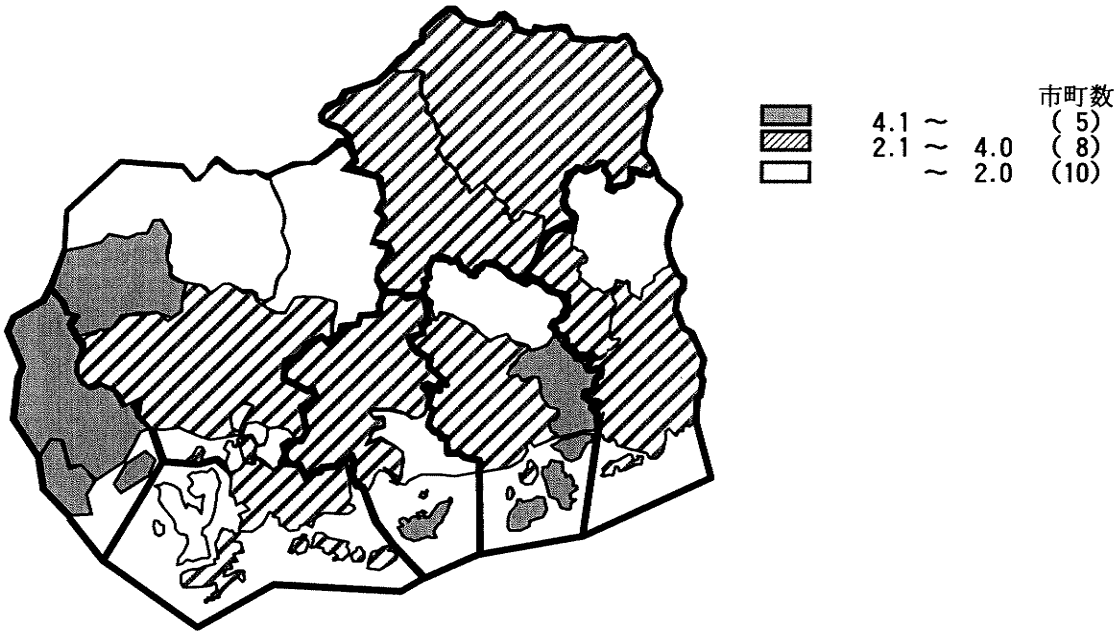
死因	平成１６年		平成１７年		平成１８年	
	実数	%	実数	%	実数	%
総数	68	100.0	64	100.0	67	100.0
肺炎	-	-	-	-	-	-
先天奇形	27	39.7	23	35.9	23	34.3
不慮の事故	2	2.9	6	9.4	4	6.0
乳幼児突然死症候群	9	13.2	2	3.1	5	7.5
周産期に発生した病態	14	20.6	21	32.8	16	23.9
その他	16	23.5	12	18.8	19	28.4

(2) **地域別にみた乳児死亡**

図19は，乳児死亡率を市町別にみたものである。

最高は安芸太田町の25.6，最低は乳児死亡のなかった江田島市，海田町等の9市町である。

図１９　市町別乳児死亡率（率：出生千対）

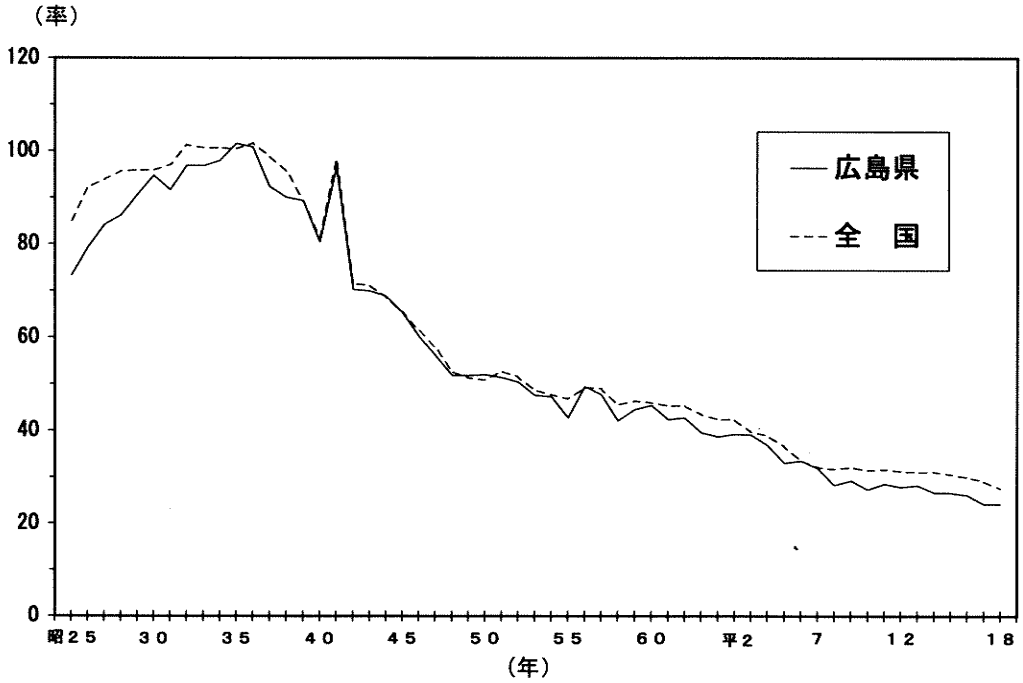


６ 死　　産

(1) **死産の動向**

死産の動向は図20のとおりで，おおむね全国と同様に推移している。近年では，全国を下回る傾向が続いている。なお，平成18年では前年に比べ自然死産が11胎，人工死産が5胎増加した。

図２０　死産率の年次推移（率：出産千対）

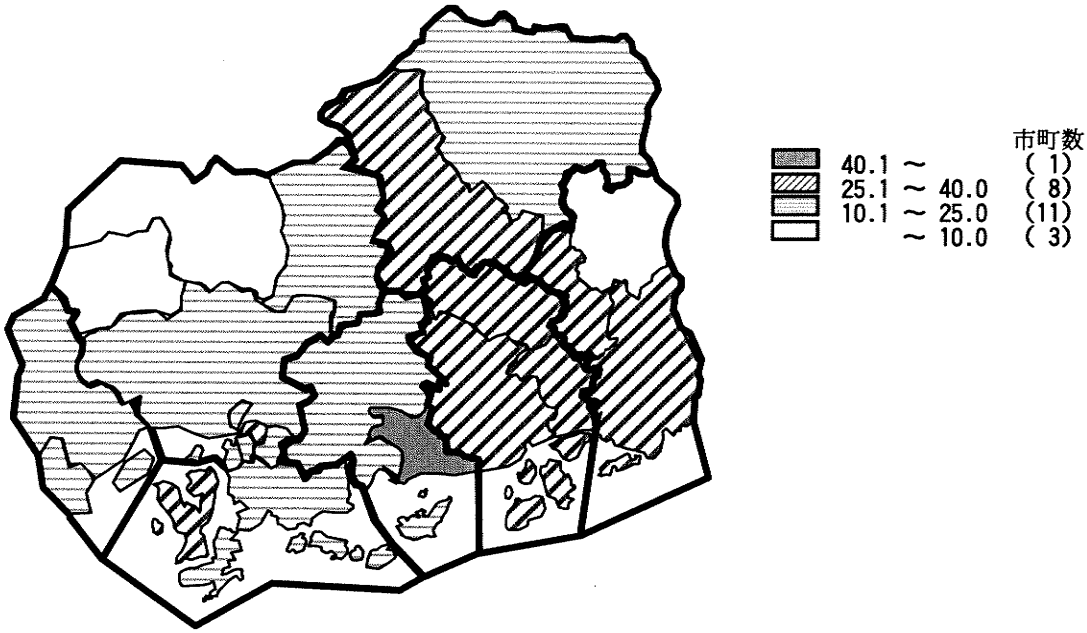


(2) **地域別にみた死産**

図21は死産率を市町別にみたものである。

最高は竹原市の44.9，最低は死産のなかった安芸太田町，北広島町および神石高原町である。

図２１　市町別死産率（率：出産千対）



(3) **妊娠期間別にみた死産**

表15は妊娠期間別の死産割合を示したものである。

自然死産は，妊娠初期に多発し，その後は減少している。

人工死産は妊娠満12週以上16週未満に最も多い。

表１５　死産数・割合，自然―人工・妊娠期間別

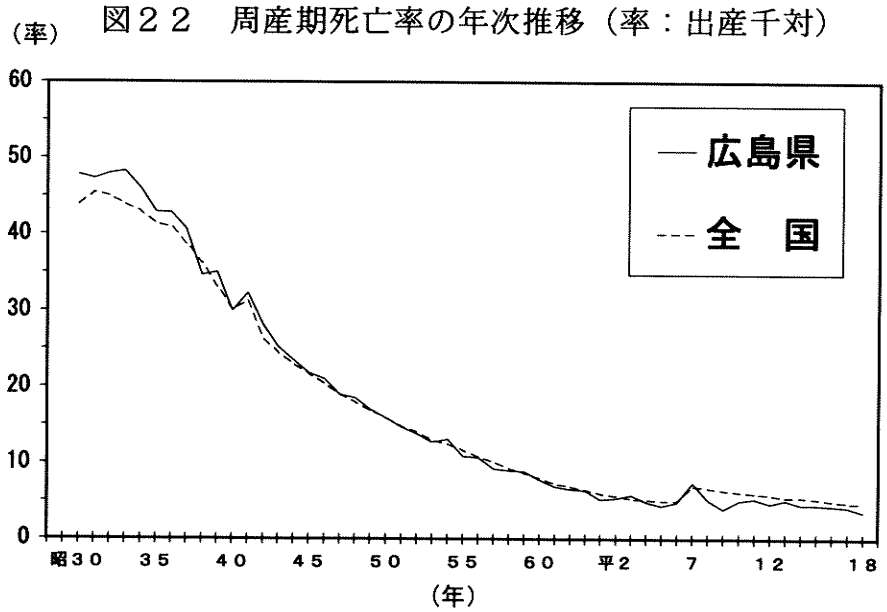
妊　娠　期　間	自然死産		人　工　死　産		
	実数	%	実数	%	全死産にしめる%
総　　数	256	100.0	373	100.0	59.3
満１２週以上１６週未満	72	28.1	181	48.5	71.5
１６～２０	85	33.2	128	34.3	60.1
２０～２４	39	15.2	64	17.2	62.1
２４～２８	13	5.1	-	-	-
２８～３２	13	5.1	-	-	-
３２～３６	12	4.7	-	-	-
３６～４０	18	7.0	-	-	-
４０～	4	1.6	-	-	-
不　　詳	-	-	-	-	-

7　周産期死亡

(1)　周産期死亡の動向

周産期死亡の動向は図22のとおりで，戦後おおむね一貫して低下を続けている。平成18年は，広島県は0.6，全国は0.1減少した。

図２２　周産期死亡率の年次推移（率：出産千対）

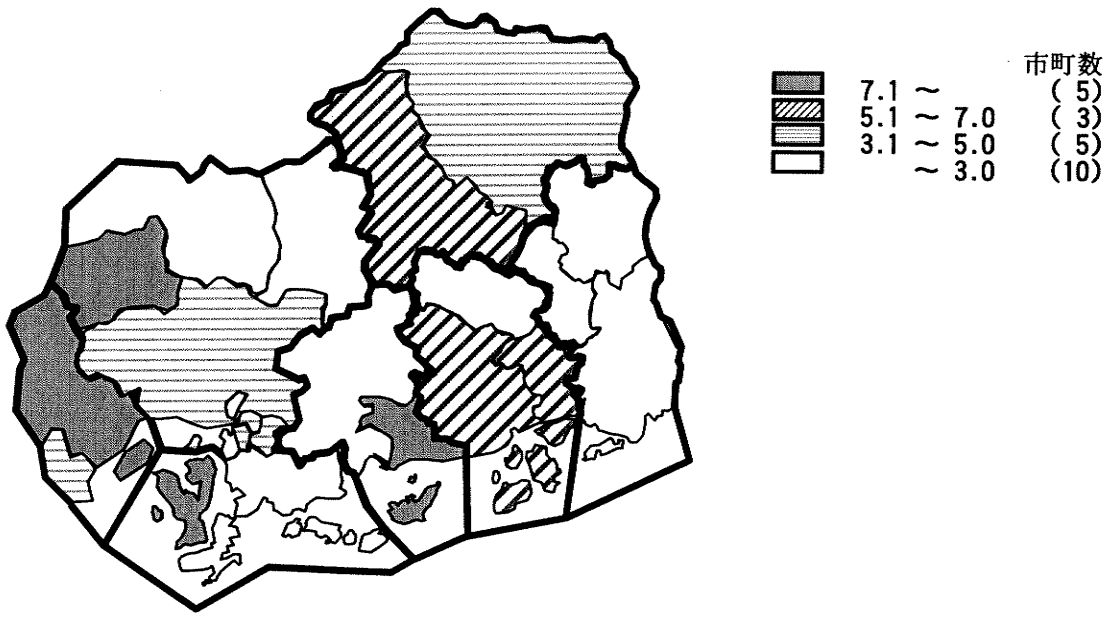


(2)　地域別にみた周産期死亡

図23は周産期死亡率を市町別にみたものである。

最高は安芸太田町の25.6，最低は周産期死亡のなかった安芸高田市，神石高原町等の6市町である。

図２３　市町別周産期死亡率（率：出産千対）



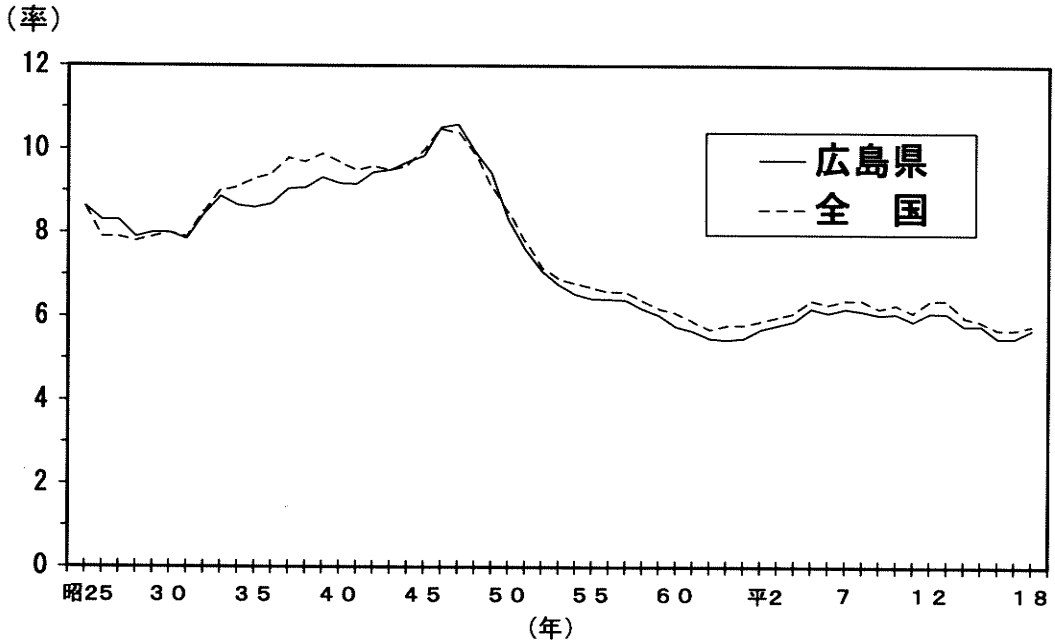
8 婚　　姻

(1) 婚姻の動向

婚姻率の年次推移は図24のとおりで，第１次ベビーブームの世代により昭和46～47年にピークを迎え，以後急激な低下を続けてきたが，平成5年以降は，ほぼ横ばい傾向にある。

なお，全国と広島県の比較では，昭和50年以降広島県が低い値で推移している。

図２４　婚姻率の年次推移（率：人口千対）

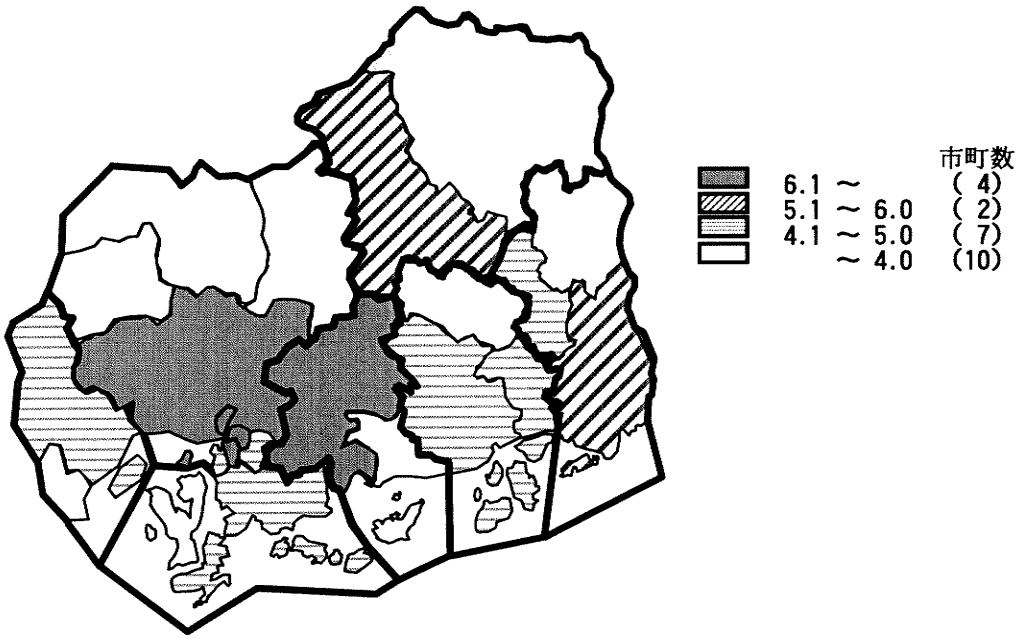


(2) 地域別にみた婚姻

図25は婚姻率を市町別にみたものである。

最高は海田町の6.6，最低は安芸太田町の2.5である。

図２５　市町別婚姻率（率：人口千対）



(3) **平均初婚年齢**

表16は年次別の平均初婚年齢を示したものである。

近年，平均初婚年齢は夫，妻ともに上昇傾向にある。

全国と広島県の比較では，おおむね広島県が低めに推移している。

なお，婚姻においては，実際に結婚生活に入ってからかなりの期間を経過して婚姻の届出を行う場合もあるので，年齢の観察に当たっては，結婚生活に入ったその年のうちに届出を行った夫妻についてのみを対象としている。

表１６　平均初婚年齢，年次別

（単位　歳）

年　次	広島県		全　国	
	夫	妻	夫	妻
昭和　１５年	28.9	24.1	29.0	24.6
２２	26.1	22.4	26.1	22.9
２５	26.0	22.5	25.9	23.0
３０	26.5	23.3	26.6	23.8
３５	27.0	24.0	27.2	24.4
４０	27.0	24.1	27.2	24.5
４５	26.6	23.8	26.9	24.2
５０	26.7	24.4	27.0	24.7
５５	27.6	24.9	27.8	25.2
５７	27.8	25.0	28.0	25.3
５８	27.8	25.0	28.0	25.4
５９	27.8	25.1	28.1	25.4
６０	28.0	25.2	28.2	25.5
６１	28.0	25.2	28.3	25.6
６２	28.1	25.3	28.4	25.7
６３	28.1	25.4	28.4	25.8
平成　元年	28.0	25.4	28.5	25.8
2	27.9	25.4	28.4	25.9
3	28.0	25.4	28.4	25.9
4	28.1	25.6	28.4	26.0
5	28.0	25.6	28.4	26.1
6	28.0	25.7	28.5	26.2
7	28.0	25.9	28.5	26.3
8	27.9	26.0	28.5	26.4
9	28.0	26.1	28.5	26.6
１０	28.1	26.3	28.6	26.7
１１	28.2	26.5	28.7	26.8
１２	28.3	26.7	28.8	27.0
１３	28.5	26.8	29.0	27.2
１４	28.6	27.1	29.1	27.4
１５	28.9	27.3	29.4	27.6
１６	29.1	27.5	29.6	27.8
１７	29.3	27.6	29.8	28.0
１８	29.5	27.8	30.0	28.2

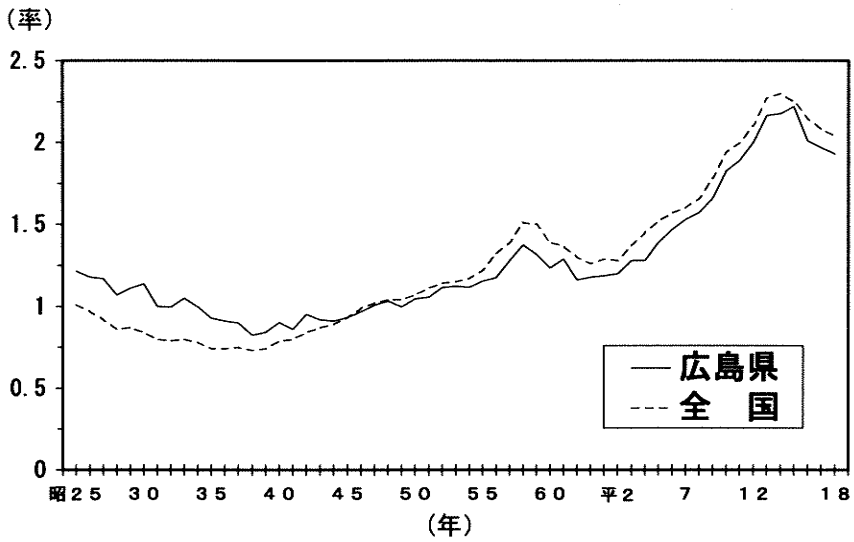
９ 離　　婚

(1) 離婚の動向

離婚率の年次推移は図26のとおりで，昭和30年代まではほぼ低下の傾向を示し，昭和40年代からは顕著な上昇傾向に転じ，昭和58年を境に再び低下傾向に転じた。昭和62年以降は一貫して上昇していたが，平成16年から低下に転じている。

なお，昭和46年に広島県が全国を下回り，以後このまま推移している。

図２６　離婚率の年次推移（率：人口千対）

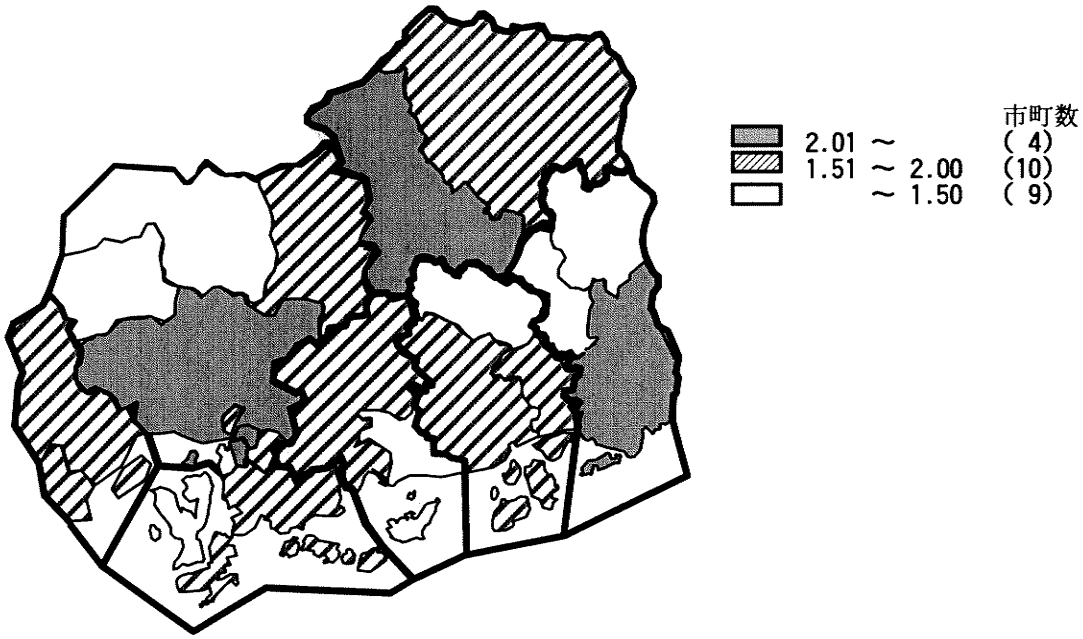


(2) 地域別にみた離婚

図27は離婚率を市町別にみたものである。

最高は海田町の2.68，最低は神石高原町の0.41である。

図２７　市町別離婚率（率：人口千対）



(3) **同居期間・種類別にみた離婚**

離婚件数を同居期間・種類別にみたものが表17である。

期間別では５年以上10年未満のものが最も多く，種類別では協議離婚が圧倒的に多い。

表１７　離婚件数，同居期間・種類別

（単位　件）

同居期間・年次	総　数	構成割合(%)	協　議	調　停	審　判	和　解	認　諾	判　決
平成　８年	4,506	・	4,118	353	－	・	・	35
９	4,747	・	4,370	342	－	・	・	35
１０	5,235	・	4,792	394	－	・	・	49
１１	5,416	・	5,004	371	1	・	・	40
１２	5,706	・	5,291	367	5	・	・	43
１３	6,184	・	5,690	432	1	・	・	61
１４	6,214	・	5,694	463	1	・	・	56
１５	6,347	・	5,781	509	1	・	・	56
１６	5,726	・	5,135	490	6	29	－	66
１７	5,609	・	4,973	497	5	70	－	64
１８	5,484	100.0	4,892	459	5	59	－	69
（再掲）								
１年未満	346	6.3	317	24	－	3	－	2
１年以上２年未満	434	7.9	386	40	1	3	－	4
２～３	403	7.3	369	31	－	2	－	1
３～４	383	7.0	332	42	1	3	－	5
４～５	289	5.3	263	23	1	1	－	1
５～１０	1,218	22.2	1,089	101	1	16	－	11
１０～１５	738	13.5	654	66	－	7	－	11
１５～２０	546	10.0	481	55	－	6	－	4
２０年以上	810	14.8	719	55	1	14	－	21
不　　詳	317	5.8	282	22	－	4	－	9

※　和解離婚・認諾離婚については、平成１６年４月より統計開始した。